

Annual Report 2012

2012年度年次報告書

特定非営利活動法人
日本イラク医療支援ネットワーク
〒171-0033 東京都豊島区高田3-10-24
第二大島ビル303 ☎03-6228-0746



目次

事務局長よりご挨拶	... 2	会計に関する報告	... 9~10
JIM-NETのあゆみ	... 3	【2012年度決算および2013年度予算】	
組織体制	... 3	【2013年3月末貸借対照表】	
JIM-NET参加団体	... 4	【監査報告書】	
2012年度事業報告	... 5~6		
2013年度事業方針	... 7~8		

事務局長よりご挨拶



イラクでは、湾岸戦争時に使われた劣化ウラン弾による放射能が原因で小児がんが増えたといわれ、小児がんで死んでいく子どもたちの映像は、アメリカの罪として、平和活動家からは、シンボリックに批判されていました。一方、アメリカ政府は、「欺まんの構造」（在日本アメリカ大使館HP）と称して、劣化ウランが危険だというのは、サッダーム・フセインのプロパガンダだとして切り捨てていました。WHOやUNEPといった国連機関が、劣化ウランに被ばくしても健康に影響はないとしているにもかかわらず、イラクは反米感情を鼓舞するために偽情報を流したといいます。「一般人は、ウラニウムという言葉に恐怖を覚えるため、この虚偽の主張が比較的通じやすいものとなっている。反核活動家の国際的なネットワークが、劣化ウランの反対運動を独自に展開しており、イラクはこの組織網を利用することができた。」と主張していました。

しかし、10年前のイラク戦争で再び劣化ウラン弾が使われてしまいました。子どもたちの理不尽な死を何とか止めたい。そんな思いが結集し、専門家集団としてできたのがJIM-NETでした。ともかく僕たちは、治療成績を上げるために尽力してきました。その傍ら、世界中で起きている理不尽なことに目を閉ざさず、声を上げることにも努めてきました。何よりも、イラク戦争の爪痕は、簡単に消えるものではなく、10年経っても状況がよくなっていないことから、戦争に加担した罪がいかに重いかを忘れてはならないでしょう。

震災後に開始した福島支援や、シリア難民支援もそういった理不尽にどう立ち向かうのかというチャレンジだと思います。今、私たちJIM-NETが掲げているのが「絆ぐるぐる」という活動です。東北の支援で残っている物資を、シリア支援に活用しようと始めた活動ですが、ただものを届けるのではなく、絆をしっかりとつなげていこうという取り組みです。311以降、日本が自分たちの復興のみを考え内向きになるのではなく、世界に目を向けてほしい。震災時にあれだけ多くの国から支援を受けたことを決して忘れずに、絆をぐるぐるとつなげていくことが世界の平和のカギではないかと思っています。

皆様、ともに、平和な世界を作りていきましょう。

صَاحِبُ الْمُسَانِدَةِ

特定非営利活動法人

日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)

事務局長 佐藤真紀

JIM-NETのあゆみ

1990年代半ば、イラクの子どもたちの間で、がん・白血病の発症率が急激に増加し始めました。1991年の湾岸戦争時に使用された劣化ウラン弾の放射能の影響だと思われます。しかし、湾岸戦争後の経済制裁による抗がん剤や医療機器の輸入制限のため、適切な治療が受けられずに、多くの子どもたちが、助かるはずの命を失っていました。2003年のイラク戦争では、米英は再び劣化ウラン弾を使用しました。イラクの病院は破壊され、疲弊し、保健行政も機能不全に陥り、増え続ける小児がん・白血病の子どもたちにとって危機的状況でした。2004年6月、来日したバスラ産科小児科病院のジャナン医師と日本の支援者たちの間で、子どもたちの窮状を救うための話し合いがもたれ、より効率的で継続的な支援体制の確立をめざし、NGO、市民グループ、日本とイラクの医師たちによりJIM-NETが立ち上げされました。以降、任意団体として7年あまり活動した後、2012年2月1日、特定非営利活動法人（NPO法人）となりました。2011年3月11日に生じた東日本大震災においては、宮城県石巻市を中心に医療支援や仮設風呂の提供を行なうとともに、地震と津波で福島第一原子力発電所の事故が起きた福島県では、放射能の被害を最小限に留めるべく除染や疎開の支援をしました。また2012年4月からは、内戦が激化したシリアから大量の難民が発生したことを受け、難民基金を立ち上げて緊急支援を開始。検診も受けられない都市難民の妊産婦に対する出産費援助などの支援を行なってきました。

JIM-NETは、イラクの小児がんの子どもたちが、自国できちんと治療を受けられるようになり、先進国並みの生存率になるように支援を続けます。福島での活動も継続し、国内外を問わず放射能汚染から人々を保護するために必要な諸活動を行います。またシリア難民支援も状況が好転するまで継続します。

組織体制（2013年3月末現在）

【役員】

現役員は以下の通り。

代表	鎌田實
副代表兼事務局長	佐藤真紀
理事	池住義憲
理事	井下俊
理事	鎌仲ひとみ
理事	平野裕二
理事	谷山博史
監事	栗原郁

【スタッフ】

東京事務所スタッフ 5名(他パートタイムスタッフ2名、JIM-NET参加団体からの出向スタッフ1名)
アルビル事務所スタッフ 1名 イラク人現地スタッフ 4名

【サポーター】

ラナサポーター* 523名
一般サポーター** 1,227名

*ラナサポーター：年会費1万円は、うち3千円が会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスとJIM-NETの運営に充てられるほか、7千円を子どもたちの医療支援費に充当します。

**一般サポーター：年会費3千円は、会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスとJIM-NETの運営に充当されます。

JIM-NET参加団体（50音順）

【アラブの子どもとなかよくする会】(<http://nakayokusurukai.cocolog-nifty.com/blog/>)

1991年の湾岸戦争後からアラブ地域、とくにイラクの子どもたちへの支援活動を開始、1993年にアラブの子どもとなかよくする会を設立しました。がんの子どもたちへの医療支援のほか、クラフト作り(アファーク・プロジェクト)を通じて患者家族の生活支援を行っています。また現地や日本での子どもの交流も続けています。

【カタログハウス基金】(<http://www.cataloghouse.co.jp/>)

カタログハウスが発行するカタログ雑誌「通販生活」では、信頼できる暮らしの道具を厳選して販売するとともに、戦争や災害に苦しむ子どもたちの救援活動に取り組んでいます。チェルノブイリの子どもたちへの支援は2008年まで18年間続けました。現在はドイツ平和村とイラクの子どもたちに薬や医療機器を送るための救援カンパを呼びかけ、2011年4月からは福島の子ども支援に取り組んでいます。

【子どもの平和と生存のための童話館基金】(<http://www.douwakan.co.jp/group/fund>)

童話館グループは、長崎市にある絵本・こどもの本を専門にあつかう会社です。2001年、童話館の創業20周年記念として、「子どもの平和と生存のための童話館基金」が設立されました。「子どもの平和と生存のための童話館基金」はイラク南部のバスラ子ども病院へ毎月医薬品の支援を行っています。

【「サダコ」・虹基金】（「サダコ」・虹基金ブログ <http://sadakoniji.sblo.jp/>）

「サダコ」・虹基金は、原爆の子の像のモデル佐々木禎子ちゃんと同じ病院で過ごした故・大倉記代さんが、サダコちゃんの絵本『想い出のサダコ』出版をきっかけに2006年3月に設立した基金です。この基金は、現代の「サダコ」ともいえるイラクなどで白血病や小児ガンで苦しむ子どもたちを支援することを目的にしています。

【スマイルこどもクリニック】(<http://www.geocities.jp/maroji60/1.htm>)

小児救急施設の不足が深刻な社会問題となる中、2001年開院された24時間診療の小児クリニックです。イラク難民キャンプでの健康診断、子どもたちの手術費の負担など様々な支援を行ってきました。2011年度はマクムール難民キャンプに救急車を寄付しました。現在、JIM-NETへスタッフを出向させる他、毎月事務局の運営費を支援しています。

【日本国際ボランティアセンター(JVC)】(<http://www.ngo-jvc.net/>)

JVCは、1980年、カンボジアやラオス、ベトナムでたくさんの難民が生まれた時、「何かできないか」とタイの難民キャンプに駆けつけた日本の若者たちにより誕生しました。現在、アジア、アフリカ、中東、そして日本の震災被災地で活動している国際協力NGOです。現場の声を政府や社会に届ける政策提言・アドボカシーの活動にも力を入れています。

【日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)】(<http://jcf.ne.jp/>)

JCFは、1991年1月、チェルノブイリ原子力発電所事故被災者への医療支援を目的として設立された認定NPO法人です。信州大学医学部の協力を得て、小児甲状腺がんや小児白血病の診断と治療を、現地医師をサポートする形で行ってきました。2004年からはイラクの小児白血病・小児がんの子ども達への支援を行なっています。また2011年3月11日からは、原発震災の福島の子どもたちを守ろうと被ばく防護対策事業を行っています。

【劣化ウラン廃絶キャンペーン(CADU-JP)】(<http://www.cadu-jp.org/contents.html>)

2003年10月、ドイツハンブルグで開催されたウラニウム兵器禁止国際会議の出席者の呼びかけに端を発し、劣化ウラン問題を憂慮する全ての人を開かれたキャンペーンとして「劣化ウラン廃絶キャンペーン」はスタートしました。この地球上で劣化ウランが二度と使用されることがないようにすること、劣化ウランの被害者を援助することを目指します。

2012年度事業報告

2013年3月20日はイラク開戦10周年であり、ひとつの節目を迎えた。東日本大震災における緊急支援に関しては石巻での支援を終了。福島支援は継続することと決定し、さらに震災の影響で手薄になったイラクの現場を、あらためて強化する方針を決定した。

10周年記念イベント「イラク10」に向けた情報収集の必要性もあり、バグダッド、バスラ、ファルージャなどを積極的に訪問したが、シリア内戦と連動して、イラクでも宗派対立が再燃。後半は治安が悪化した。

がん白血病の医療支援の成果は、2月にアルビルで開催された第12回JIM-NET会議において、支援している4病院でALL（小児急性リンパ性白血病）の初期死亡率が10%を超える、前年よりも悪化していることが判明した。原因は、患者数が増え、医者不足、看護師不足で、十分な医療を施せていないことにあると考えられる。

シリア内戦の悪化により、ヨルダンやイラクにも難民が出始めた。大事に至る前に紛争を止めるためのアドボカシーの必要性を感じ、4月から調査及びアクションリサーチを行った。日本の中ではほとんど関心が集まらない中、いち早く動いたことの意味は大きかった。しかし、内戦解決の糸口は見つからず、死者は2年間で12万人を超え、難民は150万人を超えてしまった。

一方、震災から2年目を迎えた福島支援では、「明るい未来のために、子どもたちを放射能からまもる」活動を重点的に取り組み、福島に寄り添って発信していくことを心がけた。特に食の安全のための放射能の見える化と、放射能リテラシーセミナーなどを行った。

福島とイラクやシリアの問題を個別に切り分けるのではなく、根本的な問題の共通性から、日本としてどうかかわるのかを追求した。

国際協力への関心は薄まり資金も集めにくくなつたが、チョコ募金では、「あしたのチョコレート」をテーマに、エネルギー確保のためのイラク戦争加担を批判し、経済活性化のための原発依存や原発輸出にも疑問を投げかけ、かつてないほど、メッセージを込めた「アドボカシー型チョコ募金」のスタイルを確立。

シリア難民支援では、被災地に余った衣服を届けようという「絆ぐるぐる」プロジェクトで、内向化する震災後の日本に、国際社会を巻き込んだ復興活動を提言し、震災後の日本人にとってかかりやすい国際協力を目指した。

以上の活動に伴い、アドボカシー活動は、イラク戦争の検証、劣化ウラン弾、難民、脱原発と多岐にわたりながらも、それらが互いに関係しているという観点で積極的に行った。

【主な活動実績】

1) イラク小児がん白血病支援

4病院への医薬品支援、消耗品支援などは計画通り実施できた。その他、死亡率低下のために感染症対策を重点的に行つた。特に看護師の指導が重要であることから、日本から専門看護師を派遣しアセスメントを実施して（7月）、チームワークを重視したトレーニングを信州大学で行うことを決定。12月にナナカリー病院から事務局長、医師、看護師の3名を招聘した。彼らが帰国した後は、ミーティングが定期的に開かれ、改善の様子が見られている。

●JIM-NET会議

2月に12回目になるJIM-NET会議を開催。指標にしてきたALLの一ヶ月以内の死亡率は、バグダッド、ナナカリーで10%を超てしまい、一時は改善されたかに見えた治療成績も悪くなっている。患者の数が増えて医者や看護師の手が足りないこと、バグダッドは特に老朽化した設備のために感染症対策を徹底しくいことが原因。

●院内学級

バグダッドとバスラは、活気のある活動ができている。ただし、ピクニック等の課外活動は、治安の問題と、医師との調整が上手くいかず、あまり活発には実施できていない。アルビルでは、プレイルームに来る患者が少なく、活動の見直しが必要。

●治療費負担

イランに6名の患者を放射線治療のために送った。ヨルダンでの骨髄移植はなかった。

2) 難民支援

シリア難民の影響を受け、4月15日にアルワリード難民キャンプからUNHCRが撤退し、イラン系クルド難民への支援が途絶えたことで、一部アルワリードキャンプでの医療支援を再開。難民支援基金を立ち上げた。

また、アンマン、アルビルでシリア難民支援アクションリサーチを開始。ヨルダンでは、シリアのNGO（SDR）がヨルダンのアーキラ病院の2階を借りて始めたクリニックの支援を開始、医薬品や妊婦の出産費を支援した。また石巻の被災者から申し出があり、支援物資の衣服を送る「絆ぐるぐる」プロジェクトを開始。

3) 福島支援プロジェクト

「明るい未来のために子どもたちを放射能から守る活動」福島に寄り添い発信していくことに心がけた。主な活動は、食品からの内部被ばくを防ぐために、「きちんと測って安心して安全なものを食べよう」という市民測定所の取り組みを支援するために、講師を派遣したり、測定所同士の交流や情報交換ができる場を設けた。単に技術的なことだけではなく、人生観も含めた講演会も行った。

また、二本松有機農研とAPLAが主催する福島百年未来塾にも企画協力等行った。

子どもたちへの取り組みとしては、子どもアースディなどに参加し、「教えて君が知っている放射能のこと」や「万が一カルタ」などを実施。宮崎県への保養ではアースウォーカーズへ資金提供した。

安全な食べ物に関しては、イベント等で二本松のにんじんジュースなどの販売協力をやってきた。セシウム排出効果の高いカカオを使ったクッキー作りのワークショップを行うとともに、福島県の知的障がい者福祉施設 いわき学園にカカオクッキーの製造を依頼し、それを福島の子どもたちに配布する「クッキープロジェクト」も立ち上がっている。

4) 政策提言・啓発活動

イラク戦争の検証⇒12月に外務省が検証結果を発表したが、おおむね適切というひどい内容。日本国際ボランティアセンター（JVC）らと連名で外務省に抗議文を提出。また、イベント「イラク10」を3月20日に実施。500人が参加した。院内学習会も劣化ウラン弾と合わせて行った。

JIM-NET独自イベントとしては、イラク戦争と福島原発事故、シリア内戦を子どもの目線からみた「時代を生きる子どもたち展」を開催。また、絵本「イラクから日本のおともだちへ」を子どもの未来社より上梓。

シリア難民に関しては、ODA政策協議会で意見交換（12月）、サダーカと合同でシンポジュームなどを開催した。イラク支援に関するODA評価に関しては、3月のODA政策協議会で提案。

原発関連では、11月にヨルダンで開催された原発に関して学習するセミナーに参加。JIM-NETおよび市民放射能測定所（CRMS）からスタッフが参加しプレゼンを行った。現在ヨルダンは原発導入をペンディングしており、保健省や国会議員の参加もあって有用な情報を提供できた。また12月15日に福島で開催されたIAEA国際会議では、NGOのカウンターイベントであるNuclear free nowに賛同し、通訳派遣などで貢献した。

5) 広報

支援者の輪を拡大しイラクやJIM-NETの活動について知識を深めてもらうようHPに工夫を凝らした。しかし掲載だけに終わってしまい、アクセスを増やす課題は残った。イベントに関してもあまり集客には結び付かなかった。しかし、チョコ募金ではある程度関心が高まり、facebookやtwitterなども活用して情報拡散に務めた。

6) 資金調達

予算通り達成。

●チョコ募金

「あしたのチョコレート」という戦争反対や脱原発を考えさせるようなアドボカシー型の募金を実施。前年度より2万個増やし16万個分を用意したがすべて申込完了。ただしその分だけ約1か月間、終了の時期が遅れることとなった（2月25日終了）。メディア対応や広報の手段を早めに考える必要がある。しかしながら、シリアやイラクでは募金が集まりにくくなっている中、チョコ募金の人気は根強く、シリア募金として集まらない分は、途中から募金の使途の一部（全体の3%）をシリア支援へ回し、補充することができた。

●一般募金

新規導入したカード決済では1,361,000円の入金があったが、イラクを使途に指定する募金は少なかった。JIM-NETの活動の根幹であるイラク支援をどう広報していくかが問われている。

7) サポーター

カード決済の導入やチョコ募金の個数を増やしたこともあり、新規入会者の数が増え、過去最高の伸び率になった（昨年度は横ばいだったものの、今年度は1.6倍となった）。しかし会員の継続率は低下傾向にある。

2013年度事業方針

シリア内戦はとどまるところを知らず、状況は悪化している。難民も150万人を超え、我々が活動拠点としているアルビルや、アンマンでも受け入れが大変になってきている。シリア内戦は次第に宗派対立や、民族間の紛争へと移行しており、状況が複雑化する中、イラクにも飛び火して、イラクの治安は、4月の死者の700人を見ても5年間で最も悪くなっている。治安の悪化は、当然、我々がおこなっているがん・白血病の医療支援にも影響してくることが予測される。保健省からの薬の供給の滞りや、病院にたどり着くことができない子どもたちも増える。今年度はまず例年通りの支援することが重要だが、昨今の円安により、為替差損分の支援を減額する必要があり、海外の各活動現場で10%の予算削減を指示した。

今後は政府資金などへのアプローチも検討し、資金源の多様化を図る。また来年2014年には、JIM-NETも10周年を迎えることから、小児がん、白血病の支援の評価準備を始めていく。

シリアの難民支援は緊急支援として始めたが、この地域の構造的な問題をはらんでおり、2013年度も継続していく。また「絆ぐるぐる」プロジェクトは服を送るだけでなく、被災地と中東を結びつけるプロジェクトとして発展させる。

福島事業は、昨年度県内外で放射能リテラシー向上プロジェクトを実施したが、食品農産物放射線量測定プロジェクトの集大成として、県内外の人びとにその活動を知ってもらうため、また利用者にとっても有益な情報をのせた便覧を作成する。そして、放射線防護の意識と知識の向上に関しては、放射線に対して感受性が高い子どもたちには、わかりやすい説明や情報提供が殆どなされていないことから、測定所の協力のもと、体験型の放射能の見える化学習を実施する。

昨年度から始めた「クッキー」プロジェクトについては、商品化を進め、APLAやアーユスなど協力団体へ販売を依頼していく。またこの収益は、いわき学園が太陽光発電システムを導入するための資金に充当するなど、持続可能なエネルギーの実践モデルを作る。

チョコ募金も、子どもたちの命を守ることを中心、「絆ぐるぐる」をキーワードとして、福島やヨルダン、イラク、シリアをつなげていく。

【主な活動予定】

1) イラク小児がん白血病支援

4病院への医薬品支援、消耗品支援などは10%の予算カット。

死亡率低下のために、感染症対策を重点的に行っていく。特に看護師の指導が重要であり、日本から専門看護師の派遣や、日本での研修の在り方を再検討し実施する。また、10年間の支援の効果を評価するために評価ミッションを派遣する。

2) 難民支援

妊産婦支援⇒引き続きアルビルとヨルダンで妊産婦を中心とした支援を実施する。

「絆ぐるぐる」は、国際協力の概念として定着させる。

石巻からは70kg分のTシャツ、ポロシャツをアルビルやシリア国内に配布。また福島大学ボランティアセンターと協力し、アンマンに人員を派遣。ヨルダン大学日本語学科の生徒たちとの交流を図るとともに、シリア難民への物資配給を行う。

3) 福島支援

昨年度実施した放射能リテラシー向上プロジェクトを子どもに焦点化して実施する。

県内の子ども体験学習施設などを使い、「万が一カルタ」や「ストップ原発」シリーズ（大月書店）などを使った学習の実践と、放射能のことを知るための子ども向けモデルを構築する。

また、福島産の二本松のにんじんジュースなどの販売協力を今年度も積極的に行っていく。さらに、いわき学園でカカオクッキーを製造し子どもたちに配布する「クッキー」プロジェクトの発展形として、年度後半より新たな商品開発をおこない、APLA、ATJ、アーユスらと協力し、新商品の売上金で、いわき学園が太陽光発電システムを導入できるよう取り組む等、持続可能なエネルギーの実地導入を目指す。

4) 提言啓発活動

- ・イラク戦争の検証⇒引き続き現場から情報発信。スハッドさんを日本に招聘する。
- ・シリア⇒サダーカーと連携して提言
- ・原発関連⇒特に原発輸出に苦言を呈する。
- ・福島⇒連携団体と協力して健康被害や人権について情報発信

5) 広報

HPをわかりやすくリニューアルする。またリーフレットの改定などを予定。

6) 資金調達

●チョコ募金

「子どもたちの命」のために絆ぐるぐるをキーワードとして展開する。

コンセプトは、東北からの恩返しや、アラブ諸国との在日大使館の協力を得て震災支援の時にできた海外との絆も含め、さらに絆が深まるような取組みを行う。

個数は16万個で昨年同数。営業努力により2月の初めには終わらせるようとする。

●一般募金

カード決済を増やすようにfacebook等で情報を拡散。6月は、ワールドカップ予選に合わせ感動募金を実施する。

プロジェクトに関しては、今まで政府資金を取らずにやってきたが、JICAの草の根無償や、外務省のN連、その他助成金を積極的に検討し、円安によるマイナスの影響を補う努力をする。

7) サポーター

2014年にJIM-NET創立10周年を迎える。サポーターに向けたサービスを充実させて、支援者から愛されるJIM-NETを目指す。また、チョコ募金と関連させて、サポーターを増やすための広報活動を積極的に行う。

JIM-NET 2012年度決算および2013年度予算

収入の部

項目	2012年度 決算
正会員受取会費	130,000
サポート一年会費	8,979,000
一般寄付	12,752,341
チヨコ募金	84,141,027
指定寄付	3,143,504
構成団体拠出金	16,700,000
物品・書籍販売	560,081
絵画展収入	48,000
イベント等収入	20,100
受取利息収入等	3,976
為替差益	1,208,495
当期収入計	127,686,524

収益の部

項目	2013年度 予算
正会員費	75,000
サポート一年会費	9,000,000
一般寄付	10,000,000
チヨコ募金	80,000,000
指定寄付	0
物販寄付(グッズ・書籍等)	600,000
イベント寄付	50,000
絵画展寄付	300,000
受取拠出金	構成団体 20,000,000
その他収益	受取利息収入 4,000
当期収入計	120,029,000

支出の部

項目	2012年度 決算	
海外事業	医薬品支援	4,514,000
	機材消耗品	4,643,431
	院内学級支援	524,440
	感染症対策	1,413,138
	看護師派遣費	97,291
	管理費	4,033,081
	医薬品支援	10,630,401
	院内学級支援	518,969
	研修	13,500
	患者支援	4,513,652
	感染症対策	0
	管理費	1,619,136
事業費	医薬品支援	12,938,063
	機材消耗品	217,480
	患者支援	806,921
	院内学級支援	471,635
	感染症対策	0
	管理費	1,742,826
モスル	医薬品支援	0
アンマン	管理費	0
難民支援	難民支援	91,651
難民支援	管理費	5,105,955
JIM-NET会議	管理費	0
参加団体助成金	管理費	1,381,402
海外事業計	55,276,972	
国内	震災被災者支援	3,312,352
	管理費	2,186,342
	国内事業計	5,498,694
共通事業	アドボカシー経費	666,418
	広告宣伝費	1,357,457
	物販購入費	229,855
	チヨコ募金経費	30,007,487
共通事業計	32,261,217	
	事業計	93,036,883
管理費	人件費	10,673,055
	事務所家賃・保険費	1,420,500
	事務所光熱費	228,752
	通信費	651,684
	備品・消耗品	519,360
	通勤費・交通費・国内出張費	1,109,493
	会議費	93,390
	記録・資料費	12,178
	荷造り運賃費	39,390
	支払手数料	138,287
	管理諸費	368,120
	緊急対応費	0
	海外管理費	現地出張費 161,827
	海外送金手数料	909,051
	管理費計	16,325,087
	支出計	109,361,970
	収支差額	18,324,554

費用の部

項目	2013年度 予算	
事業費	アルビル	880,000
	バスラ	720,000
	バグダッド	720,000
	難民支援	0
	福島	2,580,000
	チヨコ募金	5,000,000
	アルビル	4,231,000
	バスラ	1,566,000
	バグダッド	720,000
	アンマン	0
事業費	難民支援	1,000,000
	福島	900,000
	チヨコ募金	25,500,000
	医薬品支援	4,200,000
	機材消耗品	5,000,000
アルビル	院内学級支援	200,000
	患者支援	1,200,000
	感染症対策	1,030,000
	看護師派遣費	1,128,000
	医薬品支援	10,800,000
バスラ	院内学級支援	750,000
	医師研修	0
	患者支援	4,800,000
	感染症対策	0
	医薬品支援	17,000,000
バグダッド	機材消耗品	600,000
	患者支援	840,000
	院内学級支援	1,020,000
	感染症対策	0
	アンマン	2,000,000
管理費	難民支援	4,000,000
	福島	6,670,000
	JIM-NET会議	1,600,000
	物販購入(グッズ・書籍等)	300,000
	アドボカシー経費	1,000,000
	印刷広告宣伝費	1,500,000
	参加団体助成金	300,000
	事業費計	109,755,000
	人件費	12,000,000
	通勤費・交通費・国内出張費	1,600,000
管理費	海外出張費	1,000,000
	通信・運搬費	900,000
	事務消耗品・備品費	800,000
	事務所光熱費	230,000
	事務所家賃・保険費	1,400,000
	記録・資料費	200,000
	支払手数料	400,000
	管理諸費	500,000
	緊急対応費	1,000,000
	為替差損	0
	管理費計	20,030,000
	支出計	129,785,000
	収支差額	-9,756,000

2011年度繰越金	107,857,526
2012年度収支差額	18,324,554
2013年度繰越金	126,182,080

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

日本イラク医療支援ネットワーク

[税込] (単位:円)

2013年 3月31日 現在

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	7,148,600
東京事務所 現金	205,978	預 り 金	110,859
現地事務所 現金	7,016,177	源泉税預かり金	(100,309)
普通 預金	115,845,660	その他預り金	(10,550)
三井住友銀行	(11,743,627)	支援準備金	5,000,000
郵便局94945	(16,898,780)	流動負債 計	12,259,459
郵便局チョコ	(78,931,161)	負債の部合計	12,259,459
八十二銀行	(8,191,487)	正味財産の部	
城南信用金庫	(80,605)	【正味財産】	
現金・預金 計	123,067,815	正味 財産	126,182,080
(その他流動資産)		(うち当期正味財産増加額)	18,324,554
未 収 金	15,170,504	正味財産 計	126,182,080
前払 費用	199,500	正味財産の部合計	126,182,080
立 替 金	3,720		
その他流動資産 計	15,373,724		
流動資産合計	138,441,539		
資産の部合計	138,441,539	負債・正味財産の部合計	138,441,539

監査報告書

INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT

特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET) の 2012 年度決算 (2012 年 4 月 1 日 - 2013 年 3 月 31 日) について、監査の結果、事業は適正に実施され、また収支決算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。

We have audited the financial statement of NPO JIM-NET as of March 2012 and acknowledged that revenue, expenditures for the Fiscal Year 2011 and the balance sheet were based on generally accepted accounting principles.

日付: 2013年5月10日

監事: 粟原 郁

